



出雲市立 荒神谷博物館

出雲の原郷を巡る



荒神谷博物館は、弥生時代に大量の青銅器が埋められた荒神谷遺跡を紹介する博物館で、荒神谷史跡公園とともに人々の憩いの場となっています。周辺には、出雲西部では数少ない古墳時代中期(5世紀頃)の古墳が集中するほか、奈良時代の『出雲国風土記』(以下、風土記)に記載された神社である「風土記社」も数多く残っています。風土記に「いづも郡健部郷出雲郡健部郷」と記されるこの地域一帯は、古代の特徴的な文化財が残るまさに「出雲の原郷」といえる場所です。

The Kojindani Museum introduces the Kojindani Ruins, where a massive amount of bronzeware, such as swords and bells, were buried. Together with the Kojindani Historical Park, these sites form a relaxing place for visitors. One of the few concentrations of burial mounds (kofun) in Western Izumo from the mid-Kofun period (roughly 400 – 500 CE) is located near the site, and many Fudoki shrines described in the ancient text Izumo no Kuni Fudoki from the Nara period (710 – 794 CE) remain as well. This area, which is recorded in Izumo no Kuni Fudoki as Izumo-no-Koori Takerube-no-Sato, could be called the Original Izumo due to the distinctive and ancient cultural assets left there.

O Museu Histórico de Kojindani apresenta a história das Ruínas de Kojindani, de onde foram escavadas uma grande quantidade de peças de bronze datadas do período Yayoi. Ao lado do museu há o Parque Arqueológico Kojindani, onde os visitantes podem descansar e relaxar. Apesar de serem raras na parte oeste de Izumo, nos arredores do museu estão concentradas tumbas datadas dos meados do período Kofun (por volta do século V), além de diversos santuários xintoístas Fudokisha, registrados no "Izumo no Kuni Fudoki" (ou apenas "Fudoki") do período Nara. Esta área é descrita no Fudoki como "Takerube-no-Sato" e pode ser considerada como "As Origens de Izumo" por possuir muitos patrimônios culturais específicos de eras passadas.

荒神谷展示室(常設展)

大量の青銅器出土状況を復元模型で展示しているほか、銅剣・銅鐸・銅矛の複製品を見ることができます。荒神谷遺跡の概要を、解説パネル、模型、ドキュメント映像で学ぶことができます。



要観覧料

企画展 10月11日(土)~12月20日(日)

「四隅」が出現した頃 - 副葬品は語る -

四隅突出型墳丘墓が出現する弥生時代中期は、荒神谷遺跡に大量の青銅器が埋納された時期でもあります。本展では「四隅」に供献された副葬品に注目し、青銅器埋納の背景に迫ります。



要観覧料

企画展 12月25日(土)~2022年3月31日(木)

「出雲の原郷」展

荒神谷遺跡に大量の青銅器が埋められた背景には何があったのでしょうか。古代の出雲平野や周辺の遺跡を紹介し、当時の様相に迫ります。



「原郷遺跡」の展示

要観覧料

荒神谷遺跡発見発端の地

1983(昭和58)年、広域農道の工事前に、遺跡の有無確認のための分布調査が行われ、調査員の一人がこの地で一片の土器を拾いました。翌年、近くの谷の斜面で試し掘りをしたところ、大量の銅剣が発見されました。ここは荒神谷遺跡発見の地なのです。

土器が拾われた場所には、現在、標柱が建てられています。また、そこか

らは、風土記に「かみろのやま神名火山(神が宿る山)」として記された仏経山がよく見えます。



標柱(手前)と仏経山(中央)

三宝荒神

荒神谷遺跡の名の由来となった「三宝荒神」が祀られています。地元ではこの谷を「荒神谷」と呼びます。三宝とは仏法僧を守る神のことです。



荒神谷博物館

Archeological Museum of Kojindani

開館時間 / 9時~17時(入館は16時30分まで)
休館日 / 年末年始 展示室は毎週火曜日(祝日の場合はその翌日)
ただし、12/7・12/14・1/4は開館

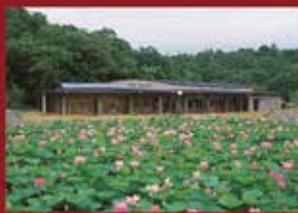
〒699-0503 島根県出雲市斐川町神庭873番地8
TEL(0853)72-9044 FAX(0853)72-7695
http://www.kojindani.jp



青銅器出土地は改修工事期間中に
つき、見学出来ない日があります。
詳しくは博物館スタッフまでお尋ね
ください。



国指定史跡
荒神谷遺跡



荒神谷博物館 周辺のみどころ

5世紀の古墳と風土記社巡り

かんばいわふねやまこふん 神庭岩船山古墳 県指定史跡 Pなし

荘原小学校の片隅にある全長約49mの前方後円墳で、後円部には舟形石棺の蓋石が残されています。北に広がる平野は古代には入海となっていました。築造当時はこの入海を行き交う船に、その威容を誇示していたと考えられます。



こまるこやまこふん 小丸子山古墳 市指定史跡 Pなし

水田の中にある径約32m、高さ5mの円墳です。古くに一部が発掘され、石を敷き詰めた所が2カ所見つかったほか、直刀、甲、土器などが出土しました。近年の調査では、墳丘は2段に造られている可能性が指摘されています。



いくさばらこふん 軍原古墳 Pなし

一部が切り取られていますが、径28mの円墳と考えられています。古くに発掘が行われ、長持形石棺の中の人骨とともに直刀、貝輪、櫛、管玉などが見つかっています。遺体には水銀朱が付着していました。



さきたじんじゃ 佐支多神社 P有り

風土記に「佐支多社」と記される神社です。戦国時代の天文年間、高瀬城主米原氏が諏訪から勧請したタケミナカタ神が祀られています。タケミナカタは「国譲り神話」に登場する神です。



はかじんじゃ 波迦神社 P有り

風土記に「波如社」と記される神社でヤマトタケル命を祀っています。慶長9(1604)年の棟札が残り、風土記を引用したとみられる記述が認められました。中世の出雲で風土記が認知されていたことを示す資料として注目されます。



かむしろじんじゃ 神代神社 P有り

権現山と呼ばれる山の中腹にあり、風土記に「神代社」と記される神社です。山頂には主祭神であるウヤツベ命が天から降臨したという巨岩があります。開拓、耕作、漁を見守る神として地域の人々に親しまれています。



JAPAN CULTURAL EXPO 文化庁 出雲市

令和3年度日本博主催・共催型プロジェクト
主催:文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会、出雲市

アクセス情報 荒神谷博物館から

- 神庭岩船山古墳まで 2.1km(車で4分)
- 小丸子山古墳まで 2.2km(車で4分)
- 軍原古墳まで 4.6km(車で8分)
- 佐支多神社まで 1.7km(車で3分)
- 神代神社まで 1.4km(車で3分)
- 波迦神社まで 1.3km(車で3分)